

## 令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	83	海外農業研修生受入支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア			
担当部課名	農林水産部営農支援課	事業実施 (予定)年度	H30 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-1-(6)、Ⅲ-7		
事業内容	研修生受け入れに対する農家負担を軽減するため、受け入れ等に係る費用の一部を助成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 (    )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	25,912		16,534		16,534
		(b)予算現額	25,912		16,534		16,534
		(c)増減額(b-a)	0		0		0
		(d)前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		25,912		16,534		16,534
	B. 執行済額		12,268		13,443		7,698
	うち交付金充当額		9,814		10,754		6,158
	C. 次年度繰越額				0		0
	執行率(%) (B/A)		47.3%		81.3%		46.6%
予算の状況の説明		執行率は46.6%であり、主に技能実習生の入国遅れにより事業量が減少したことに伴う補助金の執行残が発生したことによるものとなっている。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・外国人技能実習生研修実施		目標		140名	120名	
			実績		127名	128名	
進 捗 状 況 説 明	・技能実習については、77戸の農家において外国人技能実習生128名の受入れを実施した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (〇〇年度)
	海外研修生受入により地域の活性化が図られたとする実施市町村の割合		目標	80%	80%	80%	
			実績	90%	65%	94%	
	達 成 状 況 説 明	・受入市町村(17市町村)にてアンケートを実施したところ、実績は94%で目標を達成した。					

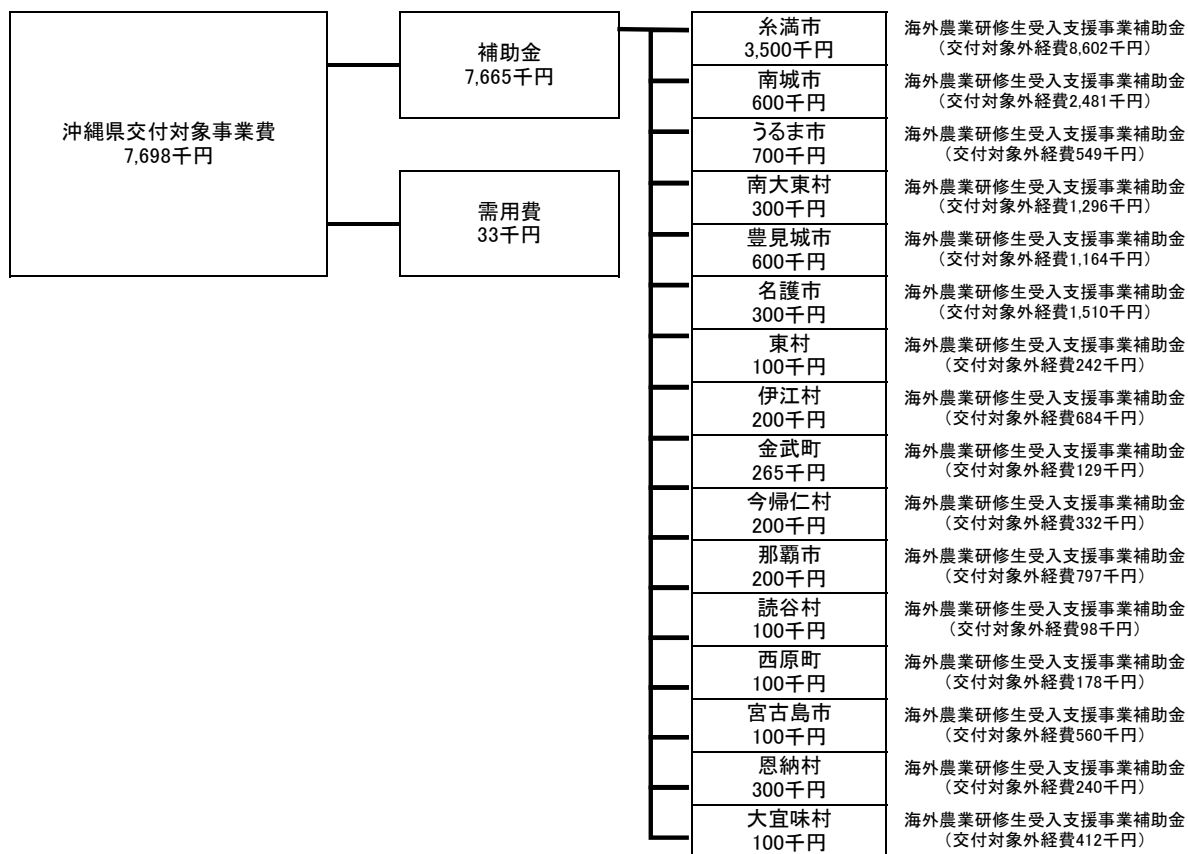
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>技能実習生の受入れを行うにあつては、入管法や技術・技能実習制度等に精通した監理団体のサポートが不可欠であり、また、地域での受入れ状況の把握については、市町村の協力が重要である。</li> <li>新型コロナウイルスの影響により新たな技能実習生の入国が困難な状況が続いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技能実習生の受入れは地域の活性化に寄与しており、本事業の実施により農業者への制度周知にも繋がった。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・本事業は一定の役割を果たしたと考えられるため、令和3年度をもって終了する。今後は特定技能等の外国人材活用の制度を推進する方法について検討していく必要がある。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
26,972	7,698	6,158	1,540	0	0	19,274



資金の流し、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・用途については、事業達成の観点から、必要なものかどうか額の確定時において支出等に関する書類検査の上、適正と認められる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	188	世界のウチナーネットワーク強化推進事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア			
担当部課名	文化観光スポーツ部交流推進課	事業実施 (予定)年度	H29 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-7		
事業内容	<p>①県民の世界各地に存在する「世界のウチナーンチュ」に対する関心を高めるため、世界で活躍するウチナーンチュのライフワークや貴重な経験を学ぶことのできる若者向けのイベントを開催する。</p> <p>②県民の世界各地に存在する「世界のウチナーンチュ」に対する関心を高めるため、各種広報媒体を活用した「世界のウチナーンチュの日」の広報活動を実施する。</p> <p>③沖縄が持つ魅力を海外に発信するとともに、海外県人会等と沖縄のつながりを維持、強化するため、海外において「世界のウチナーンチュの日」に関連して開催されるイベントに、沖縄から指導者を派遣し、派遣先県人会の取組を支援する。</p> <p>④沖縄の移民の歴史、世界各地の県系人に対する理解を深めるため、学校、社会人に向け、移民の歴史、県系人の移住地での生活・文化に関する講座を実施する。また、講座等の実施を担う講師を養成する。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	44,700		29,308		24,913
		(b)予算現額	44,700		22,032		24,913
		(c)増減額(b-a)	0		▲ 7,276		0
		(d)前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	44,700		22,032		24,913
	B. 執行済額		43,038		20,549		24,510
	うち交付金充当額		34,430		16,439		19,608
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		96.3%		93.3%		98.4%
予算の状況の説明		執行状況は98.4%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	①世界で活躍するウチナーンチュのライフワークや貴重な経験を学ぶことのできる若者向けのシンポジウムの開催	目標	シンポジウムの開催	シンポジウムの開催	シンポジウムの開催	シンポジウムの開催	
		実績	シンポジウムを開催した	シンポジウムを開催した	シンポジウムを開催した	シンポジウムを開催した	
	②各種広報媒体を活用した「世界のウチナーンチュの日」の広報活動の実施	目標	広報活動の実施	広報活動の実施	広報活動の実施	広報活動の実施	
		実績	広報活動を実施した	広報活動を実施した	広報活動を実施した	広報活動を実施した	
	③「世界のウチナーンチュの日」に関連して海外県人会が主催するイベントに、沖縄からの芸能指導者を派遣する。	目標	指導者の派遣	指導者の派遣	指導者の派遣	指導者の派遣	
		実績	指導者を派遣した	指導者を派遣した	指導者派遣を中止した	オンライン指導を実施した	
	④学校等における出前講座の実施及び講座等の実施を担う講師の養成	目標	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成	
		実績	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った	
進捗状況説明	<p>本事業では、10月30日「世界のウチナーンチュの日」を中心に、県独自、または市町村と連携して県内での関連するイベントを開催した。</p> <p>①世界で活躍するウチナーンチュによるトークイベントを10月30日に開催した。</p> <p>②①とあわせて広報活動を10月に集中して行った。</p> <p>③海外県人会が主催するイベントへの芸能指導者派遣については、コロナ禍のため、オンラインによりブラジルのカンボグラデ、ペルー、アメリカのシカゴに芸能指導を実施した。</p> <p>④出前講座については、小中学校に加えて、指導者育成も実施した。</p>						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R3成果目標(指標)	基準値 (〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (〇〇年度)	
成果目標 (指標) 及び達成状況	①来場者に対し、世界各地に存在するウチナーンチュへの興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	—	80%	80%	80%	—
		実績	—	80%	100%	100%	—
	②「世界のウチナーンチュの日」県民認知度	目標	—	45%	60%	60%	—
		実績	—	40%	40%	44.7%	—
	②-1 県人会等との新たな取組数(県以外の主体による取組)	目標	—	海外5(累計27)、 県内10(累計32)	海外5(累計37)、 県内10(累計54)	海外3(累計40)、 県内0(累計50)	—
		実績	—	海外10(累計32)、 県内22(累計44)	海外5(累計37)、 県内6(累計50)	海外3(累計40)、 県内3(累計53)	—
	③派遣先の県人会における沖縄の文化芸能に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	—	80%	80%	80%	—
		実績	—	97%	—	80%	—
	④受講者に対し、沖縄の移民の歴史、世界各地の県系人について理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	—	80%	80%	80%	—
		実績	—	100%	100%	100%	—
	達成状況説明	<p>①はアンケートの結果、100%が世界のウチナーンチュの日に関する関心が高まったとの回答し、目標を達成した。</p> <p>②はアンケートの結果、世界のウチナーンチュの日の認知度が44.7%となり、目標を下回った。達成できなかった主な理由は、新聞、ラジオ、SNSやWEB広告等幅広く広報展開を実施し昨年度より認知度は向上しているが、県民の半数以上には至らず定着に時間がかかっていることが考えられる。</p> <p>②-1は、海外県内あわせて6件の取組がなされており、目標を達成した。</p> <p>③は、アンケートの結果、80%が沖縄の文化芸能に対する興味・関心が高まったと回答しており、目標を達成した。</p> <p>④はアンケートの結果、100%が移民の歴史等に対して理解が深まったと回答しており、目標を達成した。</p>					

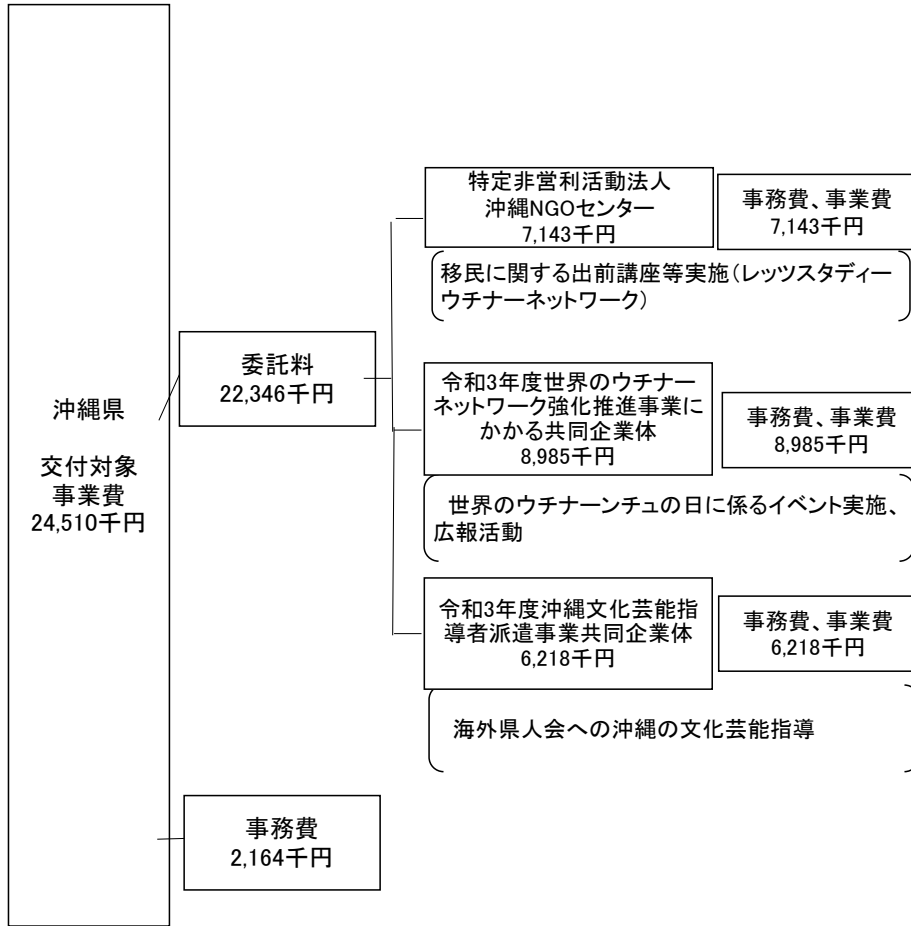
R3-No.188

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・WEBやSNSを活用し、県外や海外も対象にした広報や情報発信を展開。</li> <li>・令和4年度に世界のウチナーンチュ大会の開催を予定している。</li> <li>・「世界のウチナーンチュの日」の県民認知度は40%(令和2年度調査)とあまり高くない。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハッシュタグキャンペーンやカウントダウンフォトギャラリー等、WEBやSNSを活用し一般の方も広報・情報発信に参加する取組を強化する。</li> <li>・県内外や海外から多くの参加者が見込まれる世界のウチナーンチュ大会に、同大会の県民参加につなげる取組も行う。具体的な取組として、同大会への県民参加につなげるため、沖縄移民の歴史や同大会の意義について学ぶ出前講座や、「世界のウチナーンチュの日」イベントを同大会のプレイベントとして位置づけて実施する。また、海外県人会等に対し文化芸能指導を行い、指導を受けた団体が同大会参加のために来沖した際には成果発表会を開催する。</li> </ul>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
24,510	24,510	19,608	4,902	0	0	0



資金の 用途の 流れ、 点検、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目、用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	187	おきなわ国際協力人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章4-(1)-イ		
担当部課名	文化観光スポーツ部交流推進課	事業実施(予定)年度	H 25 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界と共生する社会の形成		
事業内容	国際協力の必要性を学び、グローバルな視点を持った、将来の本県の国際協力を担う人材の育成を目的として、県内高校生を対象とした開発途上国等への派遣をはじめ、事前・事後学習、報告会等総合的な学習プログラムを実施する国際協力レポーター事業及び県内学校で国際協力についての講座や国際協力レポーター派遣生徒の発表等について、WEB講座等も活用した出前講座を行う国際協力理解促進事業を実施する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	□直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	44,900		45,134		38,363
		(b)予算現額	44,900		14,623		25,066
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲ 30,511	0	▲ 13,297
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	44,900	0	14,623	0	25,066
	B. 執行済額		43,876		14,539		24,403
	うち交付金充当額		35,101		11,631		19,522
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.7%	#DIV/0!	99.4%	#DIV/0!	97.4%
予算の状況の説明		・開発途上国の国際協力現場へ県内高校生を派遣する「国際協力レポーター事業」は、コロナ禍の影響により、海外派遣を取りやめオンライン開催(県外3地域と高校生をオンラインで繋ぐオンラインツアー等)とした。これに伴い、予算を減額した。 ・最終的な執行率は、97.4%となり、概ね計画どおりに執行できた。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	①途上国に派遣する高校生数 39名(13名×3ヶ所) ※R3年度はオンラインで実施	目標	32名	39名	中止	39名	
		実績	32名	39名	中止	38名	
	②国際協力出前講座実施校数 20校(受講人数:50名×20校)	目標	20校 (1,000名)	20校 (1,000名)	20校 (1,000名)	20校 (1,000名)	
		実績	21校 (2,895名)	20校 (2,456名)	20校 (1,020名)	21校 (1,524名)	
進捗状況説明	・開発途上国の国際協力現場へ県内高校生を派遣する「国際協力レポーター事業」は、コロナ禍の影響により、海外派遣を取りやめオンライン開催(県外3地域と高校生をオンラインで繋ぐオンラインツアー等)とした。 ・県内高校等での国際協力に関する出前講座を実施する「国際協力理解促進事業」を業務委託する形で実施した。同事業では、離島を含む県内中学校・高校21校でJICA海外協力隊経験者等による出前講座を実施し、1,524名の生徒が受講した。						
成果目標(指標)及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(〇〇年度)
	①海外派遣により国際的な視野が広がった生徒の割合:80%以上	目標	—	80%	中止	80%	—
		実績	—	100%	中止	100%	—
	②出前講座の実施により国際協力の必要性の理解が深まった生徒の割合:80%以上	目標	—	80%	80%	80%	—
		実績	—	98%	97%	95%	—
	達成状況説明	・開発途上国の国際協力現場へ県内高校生を派遣する「国際協力レポーター事業」は、コロナ禍の影響によりオンライン開催(県外3地域と高校生をオンラインで繋ぐオンラインツアー等)とした。 ・出前講座参加者へのアンケート調査の結果、国際的な視野が広がった生徒の割合が100%、国際協力の必要性に係る理解が深まった生徒が95%と高い数値となっており、事業目標を達成できた。					

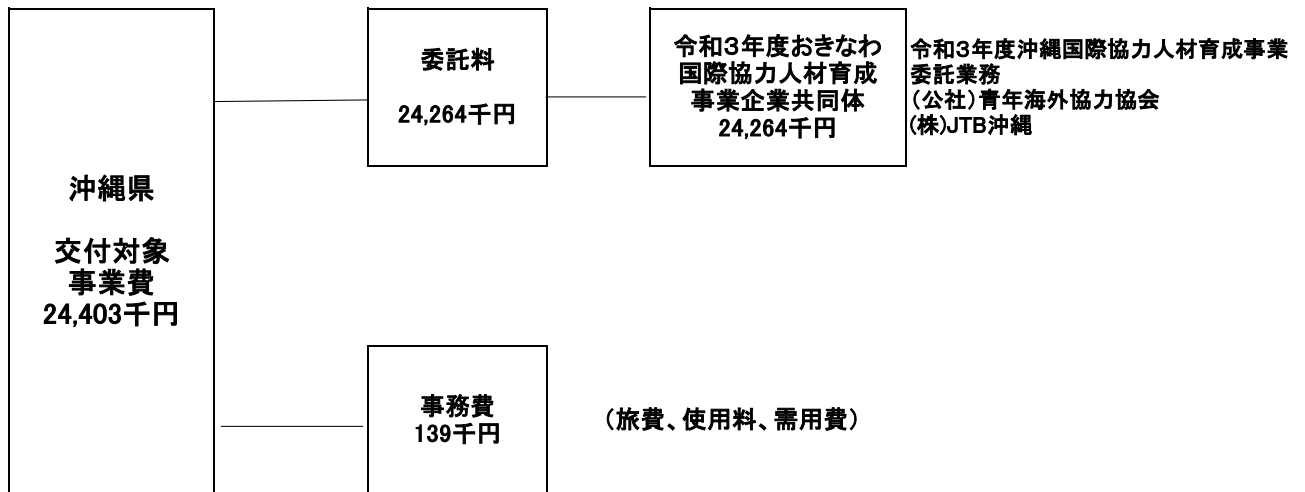
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①受講対象者に合わせた講座内容の調整など、きめ細かい取り組みが求められている。</p> <p>②派遣に関し、コロナ禍による世界的な状況の変化をはじめ、近年の国際情勢の動向・変化や感染症の状況など、安全な派遣国(地域)・視察先の選定、視察先との調整は派遣先の事情に通じた適切な実務能力と臨機応変な対応が求められている。</p> <p>③出前講座については、国際協力リポーター派遣参加生徒がいる高校以外からの開催依頼が少ない状況である。</p>	<p>①派遣においては、引き続き、事前学習・事後学習の中で、国際協力を身近に捉えることが出来るようプログラムを組む必要がある。また、出前講座においては、受講者の関心度や規模等に合わせて内容を工夫する必要がある。</p> <p>②派遣に関し、JICAや受託業者など関係機関と連携し、外務省の渡航情報等海外の安全情報等の把握に努めるとともに、派遣国(地域)決定後についても、現地の最新の情勢を踏まえて、臨機応変に対応することも必要である。</p> <p>③出前講座に関し、応募がない学校などへの情報発信を強化するとともに、従来応募がなかった学校へのアプローチも課題である。</p>

**今後の取り組み方針**

- ①派遣においては、引き続き、事前学習・事後学習の中で、国際協力を身近に捉えることが出来るようプログラムを組むよう努める。また、出前講座においては、受講者の関心度や規模等に合わせて内容を工夫するよう努める。
- ②派遣に関し、JICAや受託業者など関係機関と連携し、外務省の渡航情報等海外の安全情報等の把握に努めるとともに、コロナ禍により開発途上国へ派遣ができない場合であっても、国内で国際協力・地域おこし活動現場等の視察等を実施するなど、臨機応変に対応する。
- ③出前講座に関し、応募がない学校などへの情報発信を強化するとともに、R2年度に制作した学習教材を活用し、従来応募がなかった学校へのアプローチを積極的に図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
24,403	24,403	19,522	4,881	0	0	0



資金の流 れ、費 目 ・ 費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、公募型プロポーザル方式により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか、完了検査、額の確定時において、支出等による証憑類を確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	